

1. 理事長あいさつ

看護からはじめましょう 医療放射線利用に伴う「防護・安全文化」の構築

一般社団法人日本放射線看護学会
理事長 草間 朋子

全国各地から紅葉の便りが、そして北海道からは初雪の便りが届くようになり、季節は、急激に、今夏の猛暑とは打って変わった初冬となりました。歳とともに急激な気候の変化への身体の順応が厳しくなっていることを実感している毎日です。

9月に長崎で開催されました第7回の学術集会は、素晴らしい多彩な企画とともに、長崎の百万ドルの夜景を楽しみながら美味しい夕食を堪能させていただきました懇親会も、思い出に残る素晴らしいものでした。浦田大会長はじめ関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。

今回の学術集会のシンポジウムなどを通して、本学会は、①放射線看護のモデルシラバスの構築と普及（担当：学術推進委員会）、②看護師の放射線診療従事者の明確化と放射線防護・管理の徹底（担当：広報・渉外委員会）、③放射線看護に関連した用語の統一（担当：編集委員会、国際交流委員会）の3つの課題に早急に取り組むことにしました。折しも、環境省の平成31年度の研究助成の応募がありましたので、準備期間が2週間足らずしかありませんでしたが、理事のみなさまのスピーディな共同作業により「多職種の連携・協働で創出する原子力・放射線安全文化－看護イニシアティブー」のテーマで応募しました。財政的な裏打ちがあれば作業も効率的に進みますので、採択されることを期待しています。結果は12月末とのこと。応募の準備にあたり、放射線看護学会のパワーのすごさを実感し、心強く思いました。医療領域の放射線管理には多くの問題があることが指摘されてきましたが、改善されないまま今日に至っております。これは、医師、診療放射線技師等の医療スタッフの中に、「防護文化」が根付いていないためと思われま

す。看護師は、「チーム医療のキーパーソン」であるといわれております。上記の本学会が取り組む課題の解決をきっかけに、医療スタッフ自身の放射線防護・安全を含め、医療領域の放射線防護・安全を看護の力で充実していくという気概をもって頑張ってみませんか。

2020年には、「放射線国際放射線防護委員会（ICRP）2007年勧告」を取り入れた放射線防護関連法令の改正が行われます。2022年には、看護学のモデルコアカリキュラム、指定規則の下で、「放射線看護」を取り入れた看護基礎教育が開始します。放射線診療技術は、日進月歩で進化しております。放射線診療を取り巻く環境はおおきく変化しております。患者さんたちに安心して放射線診療を受けてもらい、放射線診療のさらなる普及のために私達看護職の力を存分に発揮してまいりましょう。

2. 理事会からのお知らせ（総務）

1) 学会員数（平成30年4月2日時点）

会員総数	458名
正会員	456名（理事10名、監事2名）
学生会員	0名
連携会員	0名
賛助会員	2社
名誉会員	0名
特別会員	0名
平成29年度新入会員数	63名
退会者数	71名（このうち会費滞納による資格喪失47名、賛助会員2社）

2) 社員総会報告

本学会が一般社団法人化して最初の社員総会は下記の通り執り行われました。

日時：平成30年9月8日（土） 13:20～14:10

場所：国立大学法人長崎大学医学部記念講堂

【役員】 草間理事長、宮腰副理事長、総務担当理事（木立）、編集担当理事（八代、吉田）、学術推進理事（西沢、野戸）、広報・渉外担当理事（太田、桜井）、国際交流担当理事（小西）、会計担当理事（浦田）、監事（菊地、作田）以上13名

○総会の成立について

総会成立のためには5分の1以上の91名の参加が必要です（定款第16条）。平成30年8月末時点の正会員数が456名、開催時点における会場出席者33名、委任状136名の合計169名であり、草間朋子理事長より総会が成立することが報告されました。

○総会議長

（定款第15条）により草間朋子理事長が総会議長を行うことが報告されました。

○書記2名

堀内輝子氏（福島県立医科大学）、加藤知子氏（東京医療保健大学）が任命されました。

○議事録署名人2名

木下美佐子氏（福島県立医科大学）、松成裕子氏（鹿児島大学）が任命されました。

【報告事項】

1. 平成29年度庶務報告

木立総務担当理事より平成29年度庶務報告が総会資料に基づいて報告され、承認されました。

2. 平成29年度事業報告

平成29年度事業計画案にそって、第6回学術大会長 太田理事、八代編集担当理事、西沢学術推進担当理事、小西国際交流担当理事、桜井広報・渉外担当理事、桜井法人化準備委員会委員より、総会資料に基づいて報告され、承認されました。

3. 平成29年度決算報告

浦田会計担当理事より、平成29年度収支決算を資料に基づき報告され、承認されました。

4. 平成29年度監査報告

菊地監査より、監査結果が報告され、承認されました。

5. 法人第2期 理事・監査候補者選出について

草間理事長より一般社団法人日本放射線看護学会第2期理事・監事候補者選出のスケジュールおよび選挙管理委員会について、総会資料に基づいて説明され、承認されました。

6. 平成30年度事業計画案

草間理事長より、平成30年度活動計画案について説明され、承認されました。

7. 平成30年度収支予算案

浦田会計担当理事より、今年度予算案および特に支出を要する事項について説明され、承認されました。

8. 第9回学術集会の予定について

草間理事長より、第9回学術集会は、平成32年度に広島大学に依頼したいとの報告がなされ、意義なく承認されました。

3) 選挙について

一般社団法人日本放射線看護学会は、法人化第2期（2019年6月から2021年6月に開催される定時社員総会終結の時まで）の理事・監事候補者選挙のために、第1回理事会（2018年6月17日）にて選出規定が承認され、7月に選挙管理委員会委員3名に委嘱しました。

委員長：前田樹海氏、委員：丸山恭子氏、委員：三森寧子氏

- ・9月末日に理事長は、理事就任の期間を明示して、理事・監事選挙を公示しました。（定款第7条）選挙管理委員会は、社員に選挙手続きを公示しました。
- ・選挙管理委員会は、11月1日にWeb選挙（投票期間11月1日から30日24時まで）による投票を社員に依頼しました。

今後12月に、選挙管理委員は全員が立ち合いの上で開票し（定款第10条）、得票数上位の者により定数枠内の者を当選者とし、これに次点者を明示して加え、開票結果を理事長に提出します（定款第11条）。

2019定時社員総会（6月15日（土）東京医療保健大学にて開催予定）において、理事長は当選者を会員に公告し、定時社員総会の決議によって理事・監事を選任する予定です。

3. 各委員会からの報告

1) 学術推進委員会

1. 委員会概要

学術推進委員会は一般社団法人日本放射線看護学会の学術推進を目的とした活動を行っています。具体的には関連学会及び団体との連携強化に関する活動、ならびに学会および学術集会の活性化・学術推進活動を行っています。

2. 委員名簿

委員長：西沢義子（弘前大学大学院保健学研究科）

委員：野戸結花（弘前大学大学院保健学研究科）

太田勝正（名古屋大学大学院医学系研究科）

青木和恵（静岡県立大学看護学部）

大森純子（東北大学大学院医学系研究科）

作田裕美（大阪市立大学大学院看護学研究科）

3. 活動

今年度は、平成29（2017）年10月に文部科学省から「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～」が提示されたことを受け、各大学で放射線看護に関する教育を行う上で標準となる「放射線看護モデルシラバス」を作成しています。各大学の事情もありますので、1単位分と2コマ分の2種類です。第7回学術集会では基調講演にご参加いただきました皆様を対象にご意見をいただきましたので、現在修正中です。最終版は平成31（2019）年3月頃に放射線看護学会HPに掲載する予定で進めています。

また、平成30（2018）年2月に放射線審議会眼の水晶体の放射線防護検討部会から「眼の水晶体に係る放射線防護の在り方について」が出されました。当学会理事会ではこの課題に早急に対応する必要があるとの判断から、本委員会が担当となり「看護職のための放射線防護ガイドライン」の作成を進めています。現在、関連学会から情報収集しているところです。2021年度には法令取入れの予定となっていますので、継続的に作業を進めて参ります。

さらに学術推進委員会では平成28（2016）年度から学術集会において会員の皆様と意見交換を行うことを目的とした交流集会を開催しています。第7回学術集会では浦田秀子学術集会長のご意向もあり、これまでの交流集会から学会企画に格上げし、テーマを看護職が行う研究に焦点を当てました。学会企画の概要はニュースレターをご参照ください。ご参加できなかった会員の皆様には、臨床研究推進の一助になれば幸いです。放射線看護に関する学術基盤を構築する上でも会員皆様の研究の芽を大事にしていきたいと考えております。

2) 編集委員会

編集委員会は、学会誌を編集し発刊する組織です。主に、学会員皆様の論文投稿から論文掲載までの期間に関わります。その他の期間は、論文の掲載に向けて、投稿手引きの見直しや Web 査読のテストランなどを行い、編集システムの環境を整えています。

【委員紹介】

委員長 : 八代 利香 (鹿児島大学)
副委員長 : 吉田 浩二 (長崎大学)
委員 : 相羽 利昭 (東京純心大学)
今村 圭子 (鹿児島大学)
北宮 千秋 (弘前大学)
新川 哲子 (長崎大学)

【報告事項】

- 第6巻の学会誌を2018年3月にオンラインにて公開しています。
- 現在は第7巻の学会誌を2019年3月にオンライン公開に向けて編集作業中です。
- 2018年4月1日より、論文の随時受付を開始しています。
- 現在は、随時査読ではなく、2018年4月から9月末までの投稿に関しては2019年3月の公開、2018年10月から2019年3月末までの投稿に関しては2019年9月の公開を予定しています。
- 本学会誌の掲載論文は、電子ジャーナルサイト Medical Online に掲載されていますが、2018年10月より電子ジャーナルサイト J-STAGE にも掲載が開始されました。
公開ページ : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rnsj/-char/ja>

3) 広報・渉外委員会

1. 委員会の活動内容

本委員会は、会員ならびに広く社会に対して本学会の活動について周知すること、および放射線診療、放射線防護等に関連する学会等との連携をはかるための渉外活動を行うことを目的とする。

2. 委員会メンバー

委員長 太田勝正（名古屋大学大学院医学系研究科）

副委員長 桜井 礼子（東京医療保健大学）

委員 小山 珠美（東京医療保健大学）

堀田 昇吾（東京医療保健大学）

3. 平成30年度 活動計画

1) 広報活動

(1) ホームページの管理・更新

一般社団法人の申請に伴い、HPを更新した。また、関連する学会・機関のホームページとの相互リンクを図り、学会内外からの情報をタイムリーに発信していく。

(2) ニュースレターの発刊

2) 渉外活動

(1) 広報用のリーフレットの作成

(2) 関連機関への渉外活動

・平成30年度、公益社団法人日本放射線技術学会との学術協定

・日本保健物理学会シンポジウムとの共催（開催予定）

テーマ：医療放射線の放射線防護をテーマ

日時：2019年1月12日（土）13時30分～

会場：東京医療保健大学国立病院機構キャンパス（東京都目黒区）

3) 公益社団法人 日本放射線技術学会との共同研究

平成29年～30年度：学術委員会学術研究班

「放射線診療従事者の不均等被ばく、とくに水晶体の管理に関する実態調査」

4) 国際交流委員会

国際交流委員会は、放射線看護学の発展に資するため、関連する国際機関や学術団体との連絡・協力などの活動を行うことを目的とする組織です。

[委員]

- 委員長 小西 恵美子(鹿児島大学)
委員 別所 遊子(東京医療保健大学)
福島 芳子(東京医療保健大学)

[平成30年度事業計画]

- (1) 本学会にとくに重要と思われる国際・国内動向を把握し、学会員に情報提供する。
- (2) 本学会活動の国際的な情報発信を支援する
- (3) 他学会との連携・交流を支援する
- (4) その他

報告事項

1) 本学会の主要取り組み課題の概念化等の起案

2019年度本学会総会(9月7日開催)後に整理された本学会の3つの主要取り組み課題^(注)を統合し、「多職種連携・協働で創出する原子力・放射線安全文化：看護イニシアチブ」として概念化した。また、その具体化のための方策を理事会に提案した。

注：①放射線看護教育モデルシラバスの構築・普及、②放射線診療を受ける人のための手帳の開発・普及、および、③原子力・放射線関連の用語統一

2) 情報収集

日本がん看護学会(2月4日、千葉)および日本災害看護学会(8月10日、神戸)の年次大会における国際交流委員会企画セッションに参加し、情報収集を実施した。

3) 他学会との交流・連携支援

日本放射線技術学会の年次大会(2019年10月5日、仙台)において、同学会と本学会との交流協定調印式及び記念キックアウトシンポジウムに参加した。

4. 学術集会について

1) 第7回学術集会の報告

一般社団法人日本放射線看護学会第7回学術集会の報告

学術集会長 浦田 秀子

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

去る9月8日（土）・9日（日）の2日間、長崎大学医学部キャンパスにおいて一般社団法人日本放射線看護学会第7回学術集会を開催しました。この4月に本学会は一般社団法人となり、記念すべき第1回目を担当させていただき感謝申し上げます。2日間にわたり、全国から315名の会員、非会員の方にご参加いただきました。開催直前の9月6日に発生した北海道胆振東部地震のため発表を予定されていた2名の方の参加がかなわず、紙上発表とさせていただきました。震災に遭われた方々にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

本学術集会のテーマは「つなぐ つむぐ おりなす 放射線看護学～すべての看護職者の学びの集積から～」とし、プロローグ、基調講演、教育講演、特別講演、シンポジウム3題、学会企画1題を企画しました。交流集会2題、一般演題59題（口演28題、示説31題）を応募いただきました。

プロローグは被爆2世の大野洋子さんに「母の思いをつなぐ」と題し、原子爆弾による被害をこの世界で二度と起こしてはならないというお母様の思い、それをつなぐ役目が自分にあることを力強く話されました。

草間朋子学会理事長の基調講演は「放射線に関わる最近の話題と日本放射線看護学会の役割・取り組み」でした。2019年度から実施される看護学教育モデル・コア・カリキュラムに放射線看護の内容が組み入れられるようになった経緯、そして学会としてモデルシラバスを提案すること、また、女性作業員の線量限度改正や眼の水晶体の線量限度の変更について、放射線防護の権威である理事長は学会としての提言など取り組みを示されました。また、関連学会との連携、特に日本放射線技術学会との学術協定など、放射線看護に関する日本で唯一の学会として役割を話されました。

特別講演は山下俊一先生から「原子力災害と向き合って」と題して、広島・長崎の原子爆弾投下後、自らも被爆しながら救護活動された先達の偉業、東日本大震災後の危機的状況の中での放射線影響研究や被ばく医療の専門家の活動をお話いただきました。来年の第8回の福島での学術集会に繋がる内容でした。

2013年第2回の学術集会を担当させていただき、この5年間の歩みはまさしく「つなぐ つむぐ おりなす 放射線看護学」であると実感しました。「臨床、地域、産業等、看護活動の場を横断して、放射線に関わる看護実践と知の集積を目指す」、「平時はもとより、事故や緊急時の放射線看護も探究する」という本学会のミッションのもと、エビデンスを蓄積し、放射線看護の専門性の確立、放射線看護学の構築に向け、大きな通過点になったと考えます。

学術集会にご参加いただいた皆様、ご支援いただいた企業、関係職種、関係機関の方々に心より感謝申し上げます。

2) 第8回学術集会のご案内

第8回日本放射線看護学会学術集会のご案内

学術集会長 末永 カツ子
福島県立医科大学医学研究科

第8回日本放射線看護学会学術集会を福島で開催させていただくことになりましたのでご案内申し上げます。

学術集会のテーマは、「原発事故から8年—すべての人々のWell-Beingをめざす放射線看護」とさせていただきます。Well-Beingは、個人の権利や自己実現が保障され身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味することばです。学術集会では、原発事故後の福島でくらす人々の日常がどのようなものとなり、どのような取り組みがなされているのかをお伝えしすべての人々のWell-Beingに貢献できる看護のあり方を考える機会としたいと願っております。

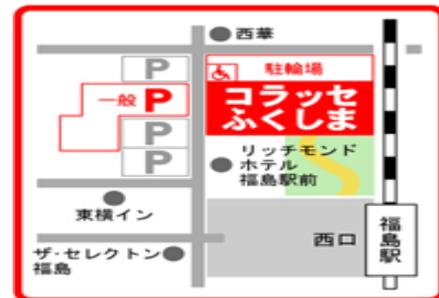
演題（口述、ポスター）、交流集会の募集は、2019年年4月2日からを予定しています。皆様の日頃の活動や研究成果を発表くださり学会を盛り上げて頂きますようお願いいたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

【会期】

2019年9月28日（土曜）、29日（日曜）

【会場】

コラッセふくしま：福島県福島市三河南町1-20
（福島駅西口から徒歩で2分）



【テーマ】

「原発事故から8年—すべての人々のWell-Beingをめざす放射線看護」

【プログラム概要】

- ・活動・研究発表（口演・示説）
- ・基調講演
- ・シンポジウム
- ・教育講演
- ・交流集会
- ・ランチョンセミナー
- ・懇親会
- ・その他、一般公開講座、現地視察も検討中です。

【学術集会HP】 <http://plaza.umin.ac.jp/~rns.j8/>

5. 公益社団法人日本放射線技術学会との学術協定の締結について

公益社団法人日本放射線技術学会との学術協定について

本年10月5日に、当学会は予めより連携を行なってきた公益社団法人日本放射線技術学会と正式な学術協定を結ぶことができました。

協定書の調印式は、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会（仙台国際センター）の式典の中で行われ、技術学会の小倉昭夫代表理事の挨拶と当学会の草間朋子理事長からの協定の意義と今後の連携の強化に向けた挨拶ののちに執り行われました。

日本放射線技術学会は1942年に設立され、約18,000人の会員を要する歴史ある学会です。放射線治療部会、撮影部会などの診療放射線に関する専門部会の他に、放射線防護部会が置かれ、医療放射線被ばくに関する積極的な活動が続けられてきております。

本協定により、例えば、がん放射線治療に伴う患者の有害事象（副作用）について、治療の経過や照射線量との関連を調べたり、IVRなどを含めた診断、治療時の看護師の被ばくについて信頼性のある線量測定結果を入手する上で、頼もしい共同研究者として私たちと一緒に研究を進めていくことが期待されます。原子力防災についても、2011年の福島第一原子力発電所事故以降、診療放射線技師の役割の模索などを精力的に続けてきており、連携できるテーマは多くあると考えます。

この協定に伴い、上記の秋季学術集会では本学会のみならず看護師一般に対して参加費無料で参加できるような配慮もなされました。双方の会員の学会参加については、まだ十分な検討ができていない点もありますが、今後より一層の交流が進むよう参加費の減免等を含めた検討を行なっていきたいと考えております。

（渉外・広報委員会：太田、桜井）

【編集後記】

11月も下旬となり、寒さが身にしみる季節となってまいりました。
皆様からのご意見や情報をお待ちしております。

広報・渉外委員会（委員 太田、桜井、小山、堀田）